

我々の目標は「プラスワン」 —安全風土改革の取組み—

株式会社エクシオテック
アクセス事業本部 北関東支店
群馬事業所 佐藤 圭一さん



1. はじめに

昨年4月に我々の担当している群馬前橋サービス総合工事エリアが、平成28年度のNTT東日本地方圏35エリアの中でベストエリア（建設）に選ばれたとの吉報が届きました。エクシオテック社としては初めての快挙でした（写真1）。

ベストエリア賞を受賞するまでには、2年間にわたる取組みがありました。

3年前、弊社で連続して発生した重大人身事故に対して、NTT東日本様から改善命令・改善勧告をいただき、全社の方針のもと群馬事業所でも日々の安全施工サイクルの取組みや、風通しの良い職場風土の醸成等、事業所一体となつての取組みを実施してきました。それらの取組内容を紹介します。

2. 改善命令・改善勧告を発出される

（株）エクシオテック発足は平成27年7月1日ですが、その前の半年の間に合併前の和興エンジニアリング（株）、池野通建（株）の両社で連続して5件もの重大人身事故を発生させてしまい、平成27年6月24日にNTT東日本様より改善命令・改善勧告をいただきました。（株）エクシオテックは、発足時から安全管理体制の抜本的な改善の取組みを求められるという、非常に厳しい状況でのスタートとなりました。



佐藤 圭一さん



写真1 ベストエリア賞の盾（感謝状）

3. 再発防止対策の取組み

5件の事故の要因は直接的には作業者が決められたルールを守らなかった事にありましたが、元請会社として安全施工に対する基本動作の徹底が不足していたことや現場作業における不安全状態の把握と不安全行動回避のための努力不足、作業者の安全に対する意識の醸成が不十分だったということであり、「基本動作の徹底」および「現場とデスクとのコミュニケーションの充実」を柱として取組みを進めました。

作業者の基本動作の徹底のために私達が進めたのは、日常作業の中で実施すべき事項を「安全施工サイクル」の中に定め、その内容を確実に実行し定着させる事でした。日々の安全施工サイクルでは、ラジオ体操と朝礼に始まり、出発前の器工具点検、作業者の送り出し、作業前TBM（ツールボックスミーティング）の実施、作業前の器工具点検、安全パトロール、作業中の監督や指導、最後に終了ミーティングに至るもので、これらの事項を作業者全員が毎日毎日地道に実行し基本動作を積み重ねていく事で、結果としてゼロ災害を実現する事を目指し



図1 安全施工サイクル (概要)

て取り組みました。例えば、ラジオ体操や朝礼ではそれまで個々に思い思いの場所で行っていましたが、地面に等間隔でマーキングすることで整列して行うようになり、私語も減り、安全指示や連絡事項を聞く姿勢にも変化が出てきました。送り出しは1台ごとに車の前後でライトやウィンカーの点灯確認、車両点検簿等を確認し、声掛けして送り出すようにしました(図1・写真2・3)。

次に風通しの良い職場風土の醸成ですが、作業者とのコミュニケーション向上のために、作業者と元請会社・一次会社の社員との個別対話会を定期的を実施し、お互いの思いを伝えあい、共有し、改善に向けての努力を確



写真2 朝礼風景



写真3 送り出し風景



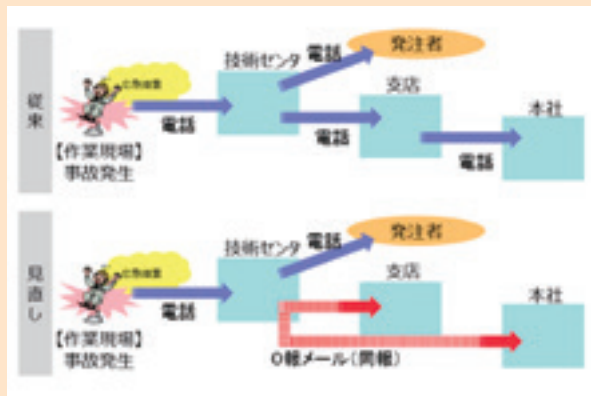


図2 O報（エスカレーション）ルールの再構築

認することや、事故やトラブル発生時には、現場から直接経営層を含めた関係者に一斉にメールで報告する「0（ゼロ）報ルール」を構築し、短時間で全社への情報共有が実施できるようにし、隠ぺい体質を失くす努力をしました（図2）。また、事業所内でも同報メールを活用した情報の共有を図る取組みを展開しています。

4. NTT東日本様からの評価

平成28年度よりNTT東日本様では各通建会社本社および事業所の安全施工サイクルで定めた各種安全施策の実施状況を確認するため安全監査を実施することになり、群馬事業所は平成28年10月30日にNTT東日本エリアのトップバッターとして安全監査を受検しました。監査での指摘事項や不備事項はなく、私達が取り組んできた「安全施工サイクル」がNTT様から高い評価をいただけたと感じることができました。

たとえば、「作業員の送り出し」においては、作業員とのコミュニケーションに重点をおいた「声掛け」や「日々点検簿チェック」等に対し、『安全監査としては今回が初めてになるが、これまで訪問して見てきている事務所の中でも一番良く安全への取組みを実施している』との評価をいただきました（写真4）。

また、平成29年1月19日に開催された、「NTT東日本グループ現場力向上フォーラム」の優良施策（ワークショップ）で、初の試みとなる通建会社による施策発表の機会を与您いただき、「安全施工サイクルの取組み」と題し、私達が取り組んで来た安全施策の取組み内容を発表しました（写真5）。



写真4 NTT安全監査模様



写真5 現場力向上フォーラム発表模様

5. 安全行動の定着による管理指標の向上

安全管理体制の抜本的な改善による取組みで、元請社員を始め協力会社社員の安全に対する意識が向上し、毎日の朝礼での周知事項や声掛け、情報共有を繰り返し実施する事でNTT様管理指標である、お客様満足率の向上や、OPTOSシステムデータ補正率も向上し相乗効果を得る事もできました。

結果として、NTT東日本-関信越様から平成28年度工事系業務表彰「アクセス部門最優秀エリア賞」「ゼロ災害達成賞」をいただくことができました（写真6・写真7）。

6. これらの取組みにおいて苦労した点

私が群馬前橋サービス総合工事の現場代理人に着任したのは、(株)エクシオテックが発足した平成27年7月1日で、改善勧告を受けて安全管理体制の抜本的な改善の取組みに取りかかる時期でした。

当時、群馬事業所のほとんどの社員が旧池野通建出身



写真6 表彰模様



写真7 感謝状



写真8 記念クオカード



写真9 安全掲示板

者で構成されている中、旧和興社員である私が着任し改善勧告の取組みを展開しなければならないという環境でした。周りからは、どんなふうに活躍してくれるのかという良い意味での期待があり、その期待をプレッシャーとして感じながら私は現場代理人として任せられた事業所をゼロ災害の現場にしていかなければならないという使命感に燃えました。

安全施工サイクルの定着に向けた取組みをはじめた当初は、朝礼でもだらだらと集合しみんなそれぞれ固まっていたのラジオ体操、形式的な送り出し等、みんなが「やらされている感」が強い状態でした。まずは元請会社社員や一次会社社員が意識を変えない事には、現場作業員1人ひとりまでの意識改革は難しいのですが、私からの指示や命令、情報をうまく伝達する事ができずに苦労しました。最初のうちは自ら朝礼の司会をすることで進行の仕方を工夫しましたが、各ロケーションで統一した朝礼を実施できるように、朝礼の司会者マニュアルの作成、元請社員の率先した朝礼・ラジオ体操への参加、作業指示の仕方について根気よく説明し納得してもらうなど、群馬事業所長はじめ幹部の皆様にも協力いただきながら

粘り強く取組みを実施することで、時間は掛かりましたが一歩ずつ前進を重ね現在に至っております。冒頭にもありますとおり、昨年4月にNTT東日本様から「ベストエリア賞」をいただいたとわかったときは、群馬事業所に働く全従事者で喜びを分かちあい、「元請会社」「一次会社」「協力会社」の一体感を強く感じました。

いただいた報奨金で記念のクオカードを作成し協力会社を含めた全従事者に配布することで、さらなるチームワークの絆が深まったと思います(写真8)。

7. おわりに

原稿を書いている本日(1月15日)で群馬事業所の連続無事故は1,487日を数えています(写真9)。

我々の連続無事故目標は「プラスワン」です。1日1日の安全作業を積み重ね、これからも日々無事故継続日数を積み上げていけるよう、安全施工サイクルの質の向上を目指し、その結果ベストエリア賞連覇をいただけるよう気を緩めることなく継続して事業所一丸となって取り組んでいきます。